

平成22年国勢調査 人口等基本集計結果

(平成23年10月26日総務省公表)

鹿児島県の概要

1 総人口

平成22年10月1日現在の本県の総人口は1,706,242人で、前回調査の17年に比べ46,937人、2.7%減少している。

2 男女別人口

人口を男女別にみると、男性が796,896人、女性が909,346人で、女性が男性よりも112,450人多く、人口性比（女性100人に対する男性の数）は、平成17年の87.8から87.6と低下している。

表1 県の人口 (単位：人，%)

	平成22年			平成17年		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性
人口	1,706,242	796,896	909,346	1,753,179	819,646	933,533
増減数	-46,937	-22,750	-24,187	-33,015	-18,333	-14,682
増減率	-2.7	-2.8	-2.6	-1.8	-2.2	-1.5

3 年齢別人口

人口を年齢別にみると、15歳未満人口は233,379人（県人口の13.7%）、15～64歳人口は1,016,150人（同59.8%）、65歳以上人口は449,692人（同26.5%）となっている。これを平成17年と比べると、それぞれ、0.7ポイント低下、1.0ポイント低下、1.7ポイント上昇している。

表2 年齢別人口の割合 (単位：人)

平成22年				平成17年			
総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上	総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上
1,706,242	233,379	1,016,150	449,692	1,753,179	252,285	1,065,960	434,559

(注) 総数には年齢不詳が含まれる。

表3 年齢別人口の割合 (単位：%)

平成22年				平成17年			
総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上	総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上
100.0	13.7	59.8	26.5	100.0	14.4	60.8	24.8

4 市町村別人口

人口を市町村別にみると、鹿児島市が605,846人（県人口の35.5%）で最も多く、次いで霧島市が127,487人（同7.5%）、鹿屋市が105,070人（同6.2%）となっており、最も少ないのは三島村の418人（同0.0%）となっている。

前回調査の17年からの5年間で人口が増加したのは3市町で、最も増加率が高いのは龍郷町の1.3%増、次いで鹿児島市（0.2%）、霧島市（0.1%）となっている。

また、市町村別に65歳以上人口の割合をみると、南大隅町が43.3%で最も高く、以下、錦江町（40.0%）、宇検村（37.1%）と続き、29市町村で30%を越えている。

一方最も低いのは鹿児島市の21.2%で、次に霧島市（22.5%）、鹿屋市（24.8%）と続いている。

表4 人口の多い市町村, 少ない市町村 (単位：%)

多い市町村		人 口	県人口に 占める割合	少ない市町村		人 口	県人口に 占める割合
1	鹿児島市	605,846	35.5	1	三島村	418	0.0
2	霧島市	127,487	7.5	2	十島村	657	0.0
3	鹿屋市	105,070	6.2	3	大和村	1,765	0.1

表5 人口増減割合の高い市町村 (単位：%)

増加した市町村		増加率	減少した市町村		減少率
1	龍郷町	1.3	1	大和村	-12.3
2	鹿児島市	0.2	2	南大隅町	-10.9
3	霧島市	0.1	3	錦江町	-10.3

表6 65歳以上人口の割合の高い市町村, 低い市町村 (単位：%)

高い市町村		65歳以上 人口割合	低い市町村		65歳以上 人口割合
1	南大隅町	43.3	1	鹿児島市	21.2
2	錦江町	40.0	2	霧島市	22.5
3	宇検村	37.1	3	鹿屋市	24.8

5 配偶関係

15歳以上人口の配偶関係をみると、有配偶率は男性が63.2%、女性が53.9%、未婚率は男性が28.1%、女性が21.8%となっている。

表7 配偶関係 (単位：%)

平成 22 年						平成 17 年					
有 配 偶 率			未 婚 率			有 配 偶 率			未 婚 率		
総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性
58.2	63.2	53.9	24.7	28.1	21.8	58.6	63.6	54.4	25.1	28.6	22.2

(注)「未婚」は、まだ結婚をしたことのない人で、死別又は離別で独身の人は含まない。

6 外国人

県内に在住する外国人は5,490人で、平成17年に比べ584人、11.9%増加している。

表8 外国人の人口 (単位：人)

平成22年			平成17年		
総数	男性	女性	総数	男性	女性
5,490	1,512	3,978	4,906	1,327	3,579

7 世帯数

総世帯数は729,386世帯で、平成17年に比べ4,341世帯、0.6%増加している。

このうち一般世帯数は727,273世帯で、平成17年に比べ4,336世帯、0.6%増加している。また、一般世帯のうち1人世帯は243,096世帯（一般世帯の33.4%）と最も多くなっている。

一般世帯の1世帯当たり人員は平成17年の2.35人から2.27人と減少している。

表9 世帯数 (単位：世帯，%)

	平成22年			平成17年		
	世帯数	前回との増減 増減数 増減率	1世帯当 たり人員	世帯数	1世帯当 たり人員	
総世帯	729,386	4,341 0.6	—	725,045	—	
一般世帯	727,273	4,336 0.6	2.27	722,937	2.35	
1人世帯	243,096	14,601 6.4	—	228,495	—	
施設等の世帯	2,113	289 15.8	—	1,824	—	

8 世帯の家族類型

世帯の家族類型をみると、核家族世帯^(注)は437,344世帯（一般世帯の60.1%）で、このうち夫婦のみの世帯は173,689世帯（同23.9%）、夫婦と子供から成る世帯は194,227世帯（同26.7%）となっている。また、単独世帯は243,096世帯（同33.4%）となっている。

(注) 夫婦のみ、夫婦と子供、男親と子供、女親と子供から成る世帯

表10 世帯の家族類型 (単位：世帯，%)

	平成22年			平成17年		
	世帯数	前回との増減 増減数 増減率	一般世帯に 占める割合	世帯数	一般世帯に 占める割合	
核家族世帯	437,344	-6,032 -1.4	60.1	443,376	61.3	
夫婦のみ世帯	173,689	1,667 1.0	23.9	172,022	23.8	
夫婦と子供世帯	194,227	-12,253 -5.9	26.7	206,480	28.6	
男親と子供世帯	9,633	549 6.0	1.3	9,084	1.3	
女親と子供世帯	59,795	4,005 7.2	8.2	55,790	7.7	
単独世帯	243,096	14,601 6.4	33.4	228,495	31.6	

(注) 平成17年の数値は平成22年国勢調査の「新分類区分による遡及集計結果」による。

9 65歳以上世帯員のいる世帯

65歳以上世帯員のいる一般世帯は294,434世帯（一般世帯の40.5%）で、このうち「一人暮らし高齢者」（65歳以上の単独世帯）は102,443世帯（一般世帯の14.1%）、高齢夫婦世帯^(注)は95,610世帯（同13.1%）となっている。

（注）夫が65歳以上、妻が60歳以上の夫婦1組のみの一般世帯

表11 65歳以上世帯員のいる一般世帯 (単位：世帯，%)

	平成22年				平成17年	
	世帯数	前回との増減		一般世帯に 占める割合	世帯数	一般世帯に 占める割合
		増減数	増減率			
65歳以上世帯員のいる世帯	294,434	8,277	2.9	40.5	286,157	39.6
一人暮らし高齢者	102,443	5,876	6.1	14.1	96,567	13.4
高齢夫婦世帯	95,610	737	0.8	13.1	94,873	13.1

10 一人暮らし65歳以上人口

65歳以上人口のうち、単独世帯で暮らす者（一人暮らし65歳以上人口）（102,443人）が65歳以上人口に占める割合は、22.8%となっている。

男女別に見ると、男性が23,153人、女性が79,290人で、女性が男性の3.4倍になっている。また、「一人暮らし65歳以上人口」の男女別65歳以上人口に占める割合は、男性が12.9%、女性が29.4%となっている。

表12 一人暮らし65歳以上人口 (単位：人，%)

	平成22年				平成17年	
	人口	前回との増減		割合	人口	割合
		増減数	増減率			
65歳以上人口（総数）	449,692	15,133	3.5	—	434,559	—
うち単独世帯で暮らす者	102,443	5,876	6.1	22.8	96,567	22.2
65歳以上人口（男性）	179,756	8,107	4.7	—	171,649	—
うち単独世帯で暮らす者	23,153	3,878	20.1	12.9	19,275	11.2
65歳以上人口（女性）	269,936	7,026	2.7	—	262,910	—
うち単独世帯で暮らす者	79,290	1,998	2.6	29.4	77,292	29.4

数値の見方

- ・本文及び表中の数値は表章単位未満で四捨五入している。
- ・割合は、特に注記のない限り、不詳を除いて算出している。また、過去の割合も同様の方式で再計算している。